

## 紹介

黒羽清隆著

### 『十五年戦争史序説』

十五年戦争（満州事変と太平洋戦争）史については歴史学研究会の総合的通史をはじめ多くの業績があり、また著者自身も別に教育社から新書版全三冊の通史を出している。

ここに紹介するのは論文集であるが、これが今までの十五年戦争史論と異なる特色は以下の点に求められる。家永三郎氏が序を寄せておりそれによると、テーマの選び方（徹視的な事象から戦争の本質に迫るアプローチ）、史料の選び方（既刊の活字本の活用）、文章の表現スタイルという点である。さらに著者自身によると「十五年戦争への内在的批判という視座に固執し」「民衆の社会的な生態と意識の追求あるいは描出に相対的なウエイトをかけ」「戦争の民衆『疎外』と民衆の戦争『疎外』と

いう、矛盾的構造にメスを入れようとした。」と言う。

Iは「上海事変考」と題し三本の論文を収める。ここでは、上海事変が十五年戦争史上、満州事変と異なる意味をもったこと、即ち、国際都市上海に起こったがゆえに特別な衝撃を天皇・元老・重臣層に与えたことの意味、上海での戦火拡大を防いだ白川大将について天皇が歌を詠み、それが秘められていたことの意味、さらに「便衣隊」に対する日本人の意識のあり方、が論じられている。

IIは「側面観・十五年戦争」と題して五本の論文を収める。家永氏の挙げた特色がよく現われている部分と言えよう。題名を挙げると、十五年戦争における戦死の諸相——「統計」と「歌」と——、太平洋戦争と潜水艦——ロンドン条約史の一断面——、国民意識における日中戦争——戦争記・戦争吟を中心として——、十五年戦争史のフォークロア——日記を読む楽しみ——、もう一つのアヘン戦争——日中戦争史の一断面——。このうち最

後の論文は未発表のものであるが、日本軍がもちこんだアヘンがいかに中国民衆をむしばんだかが示されている。

IIIは「昭和史における天皇」と題して二本の論文を収める。ここでは、美濃部達吉の機関説と家永氏の示峻とに基き、天皇の統帥権の問題が論じられている。特に、「立憲君主」としての天皇と「専制大元帥」としての天皇（この場合国務大臣と同じ意味での「輔弼」はなく、軍令機関はいわば大元帥の風僚だという）が同一人の中に並立していたのではないかという視点を提示している。これは天皇の戦争責任をさらに明確にするものであろう。天皇は単なる裁可者ではなく、国務と統帥の双方において最高の統治者であった。

IVは「昭和思想史ノート」として、柳田国男、『暗黒日記』と清沢冽、西園寺公望、服部之総とその史学、『断腸亭日乗』と永井荷風、結城哀草果とその歌、について、六本のノートを収める。服部史学ノートについてみると、著者は服部史学の特徴を次

のように把握する。服部の歴史叙述には「政治史」の「究極」的担い手である人間が生きており、その意味でそれは人間性、史学である。その構造的特徴は、階級的規定性と運動史的志向性（階級の論理と運動の論理）の統一をめざし、歴史における前進的・進歩的契機を優先させる原理を維持する点にある。それゆえ服部の史論の主力は、変革期において運動史的志向性（政治的実践）がその志向を持つ人間の階級的規定性を克服してゆく過程に注がれている、と。

最後にVとして十五年戦争史に関する書評五本を収める。

またこの本には、各章ごとに「私記」がはざまこまれており、論文作成のいわば楽屋裏を知ることができるのもおもしろい。著者の人柄がしのばれよう。

以上、恣意的に内容を紹介したが、ともあれこの論文集は、十五年戦争の民衆史的視座にたつ研究として無視できぬ重みをもつものである。

(四六判 五四四頁 一九七九年九月  
三省堂 三三〇〇円)  
松延秀一 京都大学大学院生

### 『史林』投稿規定

本誌の投稿規定は次の通りです。

◇資格 本会会員であること

◇投稿受付原稿の種類、長さなど

○研究論文・研究ノート

四〇〇字詰五〇枚程度

研究論文には四〇〇字以内の「要約」

と、「英文要約」を添付のこと（研究

ノートには両方とも不用）

評は原則として各章末に入れること

○学会動向・批判と反省

四〇〇字詰三〇枚以内

○書評 四〇〇字詰二〇枚以内

○紹介 四〇〇字詰三枚程度

◇送 先 史林編集委員会

〒 六〇六 京都市左京区吉田本町

京都大学文学部内

バックナンバーのお知らせ

『史林』のバックナンバー在庫は次の通

りです。お申込は必ず前金にて、郵送の場合送料（各冊四〇〇円）を添えて下さい。

三三巻一号 五一巻一〜六号

三四巻一・二・四号 五二巻一〜六号

三八巻二・四号 五三巻一〜六号

三九巻六号 五四巻一〜五号

四〇巻六号 五五巻一〜六号

四一巻四号 五六巻一〜六号

四二巻五号 五七巻一〜六号

四三巻二・三・六号 五八巻一〜六号

四四巻六号 五九巻一〜六号

四六巻四・五号 六〇巻一〜六号

四七巻一〜六号 総目録

四八巻一・三号 六一巻一〜六号

四九巻三・五・六号 六二巻一〜六号

五〇巻四号

頒価は、五六巻六号までは五〇〇円、五

七巻一号〜五八巻六号は六〇〇円、五九巻

一号以降は七五〇円です。なお総目録は、

頒価一〇〇〇円送料六〇円となっております。